

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
メールアドレス：info@ogiharakenji.com
連絡先：042-705-5119 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政リポート

新年度予算審議がスタート！

去る2月25日(木)より「平成28年第一回定例会」がスタート致しました。この定例会は新年度(平成28年度)予算案という大事な議案が審議される議会でもあります。

新聞等で報道されている通り、新年度予算は過去最高を4年連続で更新、一般会計は前年度当初予算と比較して5.2%、20億4,835万3千円増の414億1,450万1千円となっていますが、市当局が発表した増加の主な理由としては、高齢化等により年々増え続ける扶助費が大幅な増となることから、義務的経費が前年を上回る見込みとされています。

こうした状況下、市政運営の基本設計図となる「第四次座間市総合計画」の見直しが行われ、その基本構想に掲げられた9つの将来目標(政策)の着実な推進が図られています。

歳入の内訳を分析すると、市税等の自主財源は223億7,382万円余で、対前年比4.7%、10億1,124万円の増で、この要因は個人市民税は1億5,888万円余、2.1%の減となっている一方で、アベノミクスの効果により大企業を中心とする企業業績の改善により法人市民税が5億1,010万円増となっていることに加え、償却資産でも一部企業において積極的な設備投資が行われたことや、新築・増築家屋等の増加による固定資産税収が2億3,399万円余の増と見込まれるからです。

歳出を性質的に分析すると、人件費や物件費、扶助費などの義務的経費が379億9,486万円余で、前年度と比較して6.1%増、構成比は91.7%と先に述べた通り増加の一途を辿っています。

その一方で、市民要望の大きなものについては必要な予算措置がなされているとも言えます。

今年度の事業で言えば、北地区・東地区文化センターに念願であったエレベーターが設置さ

れました。最終の点検を行っている最中で、完了次第供用開始となります。

また、新年度では小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業において、先に完了している相模原市分の建物とを結ぶペデストリアンデッキの建設計画のための予算が計上されていますし、市道7号線、いわゆる東海相模通りの小田急線踏み切りから行幸道路までの区間については用地取得も完了し、道路整備と電線地中化の予算も計上されています。

相模が丘第一自治会館老朽化対策の補助金やイオンモール開業に向けた渋滞対策の周辺道路整備として、栗原乗馬クラブ~座間ゴルフクラブ付近を経て芹沢陸橋付近までの市道38号線整備なども順調に進められ、さらには座間市初となる都市公園「芹沢公園」整備も平成29年度内完成に向け着実に進められています。

全国市議会議員の平均年齢と在職年数

全国市議会議長会による、最新の市議会議員の年齢等の属性調査結果が出されました。在職年数10年未満の議員の占める比率が平成23年には67.9%でしたが、平成27年では55.6%と12.3%低下しています。経験が重視された結果でしょうか。

年齢構成を見てみると、男性は60代の43.1%が最多、次いで50代の25.1%、40代の13.3%、70代の11.6%と続き、女性では50代の38.0%が最多、ほぼ変わらず60代の36.3%、40代の13.8%となっています。

座間市議会では、男性議員は計15名、70才以上が2名、60代が3名、50代が5名、私を含めた40代が3名と、全国平均より若い年齢構成となっており、女性は計6名、60代が2名、50代が3名、40代が1名となっており、こちらは高めの構成になっています。